

今は昔、情報メディアセンター所長

中尾 浩(法学部)

私が坂東昌子所長の後を引きついで、非力ながら名古屋情報メディアセンター所長を拝命したのは2006年10月から2008年9月までであった。私のような若輩者がこのような大任をお引き受けしてよいのかずいぶん迷い、何人かの先生方にご相談したところ、愛知大学に着任以来、ほぼ情報センターの委員を務め続けていたことや、他の候補の方の激務など多々論された末、蛮勇をふるってお引き受けすることにした。

着任時の私には二つの大きな仕事があった。一つは2008年度から始まる新システムをどうするかという問題で、もう一つは複雑怪奇になりすぎた学内の情報関連組織の整理であった。

まず最初の新システムについてだが、それまで愛知大学ではおおむね4年に1度、学内のコンピュータ機器を入れ替えていた。補助金の活用や、日進月歩の情報機器の更新を考えてのことであったが、別に4年に一度必ず入れ替えなければならない、というわけではなかった。最も懸念したのは、OSの問題である。それ以前からMicrosoft社のWindowsが本学の基本的なOSであったが、一民間企業の製品で学内ネットを構築することの是非は折に触れて学内外で議論されていたし、事実、我々も初めにWindowsありきではなく、LinuxもMac OSも平等に検討した。しかし、学生の卒業後の企業でのコンピュータ利用等を考えると、どうしてもWindows系を選ばざるを得ず、結局、その時も発売されて間もないWindows Vistaを導入するかどうするか、多々議論を行った。前評判の良くないVistaであったが、ここで入れ替えておかないと、XPを使い続けることになり、少々長すぎはしないかと懸念された。結果的にはVista導入を決断したものの、前評判通り、余り出来の良いOSではなく、私は最も評価の低いOSを導入した所長ということになってしまった。だからと言ってXPを使い続けていたら、セキュリティ等の観点から、余計なメンテナンスの手間がかかったかもしれず、時代の流れを読むのは難しい。

次に私が考えなければならなかったのは、学内の情報関連組織が複雑になりすぎて、どの委員会でも何を決めればよいのかさえ分かりにくくなっていたのを整理することであった。実際、私自身も連日のように行われた会議の違いがよく呑み込めないほど、入り組んでいた。疲れている時など、「はて、この議題はもう話し合ったような気がする

るが、その時とは半分ほど委員の顔ぶれが違うのはなぜなのか」などと当時の中村課長にこっそり耳打ちして、「先生、それは別の会議です」と教えられたりしたものだ。

豊橋情報メディアセンター所長の経験の長い龍先生とも多々協議した結果、当時、情報関連の議題の整理のために、豊名のセンター所長と情報システム課長で構成していた非公式の会議(通称、スタッフ会議)に情報担当の学内理事を迎えて、単に議題の整理のみならず、全学的な情報戦略の方向を練る公式なICT企画会議なる会議体を設け、もろもろの情報関連の会議体をICT企画会議直属のICT委員会にまとめた。その結果、情報関連の会議の数は少なくなり、ICT企画会議が中心となって、必要に応じてテンポラリーな会議体を設けやすくなり、機動性が増したように思われる。

笹島開校に向けて、情報関連で議論しなければならないことは多々あったと思われる。会議の議事録を拝見する限り、必要に応じて必要なメンバーを集めた会議体が次々と仕事をこなしている様子がうかがえて、とても心強く思っている。愛知大学には理系の学部はないが、各学部配属された情報科学が専門の先生方や情報教育に熱心な先生方、深夜に及ぶ残業もいとわず頑張ってくれている事務職員の皆さんのおかげで、全国的に見ても、健闘している情報環境ではないかと自負している。現状に満足することなく、今後ともますますの発展を祈っている。